

修業生の給与へのチョットとしたボーナス

https://www.lapprenti.com/articles/article_auto.asp?news_id=1353&one=1

修業生に対する 30 ユーロ(訳注:約 5,000 円)の給与の増額、修業教育の改革の少し前進しました。

30 ユーロの増額

進行中の修業教育の改革は、労働大臣ミュリエル・ペニコー氏によって推進されていて、少し前進しました。18 歳の修業生(修業教育契約にサインした後での 500 ユーロ)のすべての修業生に対し、運転免許の補助を公示して後に、契約の価値を高めるために新しい仕上げがなされました: 16 歳から 20 歳までの修業生に対して最低給与の増額 30 ユーロです。

これは改革の「修業生」の視点からであり、修業生の状況に改善をもたらすとみなされているもので、若者に天職を鼓舞することにふさわしいものです。大きな願望に対する小さな施策です。他のスタンスとしては「企業」の視点と、「公共」の視点があります。

企業にとって改革は契約の簡略化、修業教育の教員との会合そして様々な援助をもたらしました。前進ではありますが改革ではありません。

修業教育の財政である「公共」の視点では、このプロジェクトに対してミュリエル・ペニコーによって望まれた(コペルニクス的革命)革命的な兆候を示している唯一のものです。企業に向かっての流れを再方向付けすることで、専門職分野は地域の不満にもかかわらず修業教育税から免れており、それが変わるべき施策です。

転換の鍵となる企業

ドイツあるいはスイスのモデルによると専門職分野が養成内容を選び、企業の要望に適合した免状を定義するでしょう。修業教育の私物化だ!と地域は告発しています。有効化だ!と改革推進者は応じています。政治と組合は絶えずこの立場で真っ向から対立するでしょう。これは来春の法律の提案を正式に表明する前に激しくなる議論の核心なのです。

修業生こそ得点を数える

特にそれは身内の争いです。その方向性に疑問を持ちながらも、政府が提供するものを吟味している若者は戸惑いを感じています。

運転免許のための 500 ユーロの補助は明らかに喜んで受け取ります。それはその選択に安心して受け取るのに十分でしょうか?そして 30 ユーロ増額はおのずから 614 ユーロ(18 歳で初年度)

の給与に彩りを添えるものです。ベビーシッターよりも割が良いけれどもコペルニクスの障害物を乗り越えるものではありません。

更新日:2018/03/01